



SANO NIHON UNIVERSITY
SECONDARY SCHOOL



Member of
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization
UNESCO
Associated
Schools

[広報]

わかざくら

W A K A Z A K U R A

vol. 54
2021. 1. 29



春立つ日、間近

目次

年頭の辞（理事長・学園長）	P 2
年頭の辞（校長・日本大学学長）	P 3
ブリティッシュヒルズ英語研修	P 4
Global eye・輝く仲間たち	P 5
人権作文・英検準1級合格	P 6

佐野日本大学中等教育学校

栃木県佐野市石塚町2555 ☎ 0283-25-0111(代)
<http://ss.sanonihon-u-h.ed.jp/>



未来への希望に向け 新時代の教育を

理事長 長谷川 弘

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本学園に対し格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大は、記念すべき「オリンピックイヤー」となるはずだった2020年を一変させました。特に2月28日の文科省からの臨時休校要請は、全国の教育機関に大きな混乱を引き起こすものとなりました。各学校において教育活動が制限され、学生・生徒だけでなく保護者の皆様も大きな不安を感じられたことと推察いたします。

しかしコロナ禍の中、諸外国より遅れていると指摘されていた日本の教育現場がオンライン対応を余儀なくされ、半ば強制的にデジタル化されたことは、別の側面における進化をもたらしました。「人間万事塞翁が馬」このことは、従来「対面型」に偏っていた教育活動のあり方を根本から問い直す機会となりました。本学園でもオンライン授業への対応がすぐに始められ、「学びを止めない」を共通認識とし、迅速かつ積極的

な対応ができたものと、いささか自負しております。

そして、このICT化への流れは不可逆的なものであり、今後さらに加速するはずで。昨年春からサービスが開始された第5世代移动通信システム「5G」はIoTとの連動により、教育現場も含め革新的な活用が期待されます。たとえばすでに国内でも、新型コロナウイルス感染予防としてロボットを遠隔操作したり、自宅にいながら登校時と同等の教育を受ける手段としてのアバターロボットの開発が進んでいます。

今、社会はコロナ禍と急激なICT化により、「変化へ適応する力」が厳しく問われています。しかし本学園は常に時代の変化を先取りした教育を行ってきました。逆境に立ち向かい、変化を恐れない果敢な姿勢は、むしろチャンスを引き寄せます。これからも私たちは、激変する未来に大きく飛躍する学生と生徒を育てる教育活動に、全力で取り組む所存です。

昨秋、佐野日本大学短期大学では学園祭の代替として「SANOTAN FESTIVAL～希望の灯りをともそう～」を開催いたしました。コロナ禍により創立30周年に向けた計画の見直しを余儀なくされる中、学生の皆さんを中心に企画立案され成功を収めました。キャンパスを彩るイルミネーションは神々しく輝き、困難に負けない勇気と感動、そして未来への希望を与えてくれます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとってすばらしい一年となることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



困難を乗り越え新しい未来へ

学園長 浦田 奨

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。また今年も本学園に対し、格段のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

昨年の新型コロナウイルス感染拡大は、世界中の人々の生活を根本から変えるものでした。日本でも多くの店舗や施設が営業自粛を余儀なくされ、経済に大きな打撃を与えました。そして一方で、学校の休校に伴うオンライン授業や、多くの職場で普及したテレワークなどデジタルツールの活用が急速に進み、それまで常識であったことの多くが覆されました。今後、感染が完全に終息したとしても、社会が元に戻ることはないと言われます。

振り返れば、過去に幾度となく繰り返された自然災害による甚大な被害から人々を救ったのは、自分のことはまず自分で守るという「自助」の意識に、人々が主体的に助け合うという「共助」の心が重なり合った力でした。なんの前触れもなく、社会構造そのものが

一瞬で変わってしまうこの不透明な時代だからこそ、自己の利益だけにとらわれることなく、すべての人が新しい生活のあり方を積極的に構築していく姿勢が求められます。

日本大学の教育理念「自主創造」には、「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という、この困難な時代を生きるための指針があらわれています。そして私たち佐野日本大学学園はこの精神に基づき、「時代を先取りする教育」を常に実践してきました。新型コロナウイルス感染拡大による休校要請を受けた時、すぐにオンラインによる授業配信を開始し、「教育の危機」を乗り切ることができたこと、また対面授業と大きく変わらない指導体制に、多くの保護者の皆様から喜びの声をいただいたのも、未来を見据えた教育を展開する本学園の成果だと考えています。

「艱難汝を玉にす」という言葉があります。西洋のことわざの意識ですが、「人間は困難を乗り越えてこそ、立派になる」という意味をあらわしています。先の見えない変化の激しい時代だからこそ、そこで経験する困難に大きな意義があるのです。これからも私たちは、学園で学ぶすべての若者が逆境をたくましく乗り越える力強さを身につけ、この佐野の地より世界に向けて羽ばたいていける人材に成長できるよう全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様の一年が希望に満ちたすばらしいものとなることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



夢の実現に向け 誠実に粘り強く

校長 船渡川 重幸

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の猛威に翻弄され、本校でも様々な活動が停滞・縮小するなど大きな影響があった一年でした。それでも皆様方のご理解とご協力、そして生徒の頑張りによりまして、無事に過ごすことができました。ここに改めて感謝申し上げます。新しい年を迎えても、暦とは関係なくコロナに向き合わなければならぬ厳しい状況にありますが、本年も変わらぬご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。また、今後も、コロナ対策の徹底を図りながら、生徒が夢や希望を持って日々生活できるよう努めてまいります。

さて、今年の干支は「辛丑」、丑年です。昔から、牛は農耕になくはならない重要な存在であり、同じ屋根の下に人間と暮らす家族の一員でもあったのです。私も小学生の頃ですが、近所の農家にはごく普通に牛が飼われていました。犁をつけて田畑を耕す姿をよく見たものです。現代の日本では、農業の機械化によって、その役割はなくなりましたが、今でも私は、牛の、一步一步着実に前進する姿に「素直さ」や「真面目さ」、「粘り強さ」を感じます。コロナ禍の中、牛は私たちに、どんな状況にあろうと慌てることなく、焦らず、しっかりと前に進んでいくことを教えてくれているように思えてなりません。辛丑の年は、草木が枯れて土になる一方で、新しい芽生えが始まる年であると言われています。まさに“転換の時”であり“新たなスタート”をする節目というこ

とになります。コロナ禍の中、まだしばらく辛抱しなければなりません、誠実に粘り強く取り組んでいきたいと思えます。

佐野日本大学中等教育学校の教育目標は「磨こう心 輝く知性 拓こう未来」です。私はこの教育目標の中に“心”、“知性”、“未来”があることに、大きな意味があると考えます。心には形がありません。知性も未来も同じです。学校は、形のないもの、子どもたちのなかに宿る「目に見えないもの」に思いを巡らせたり追求したりすることを大切にする場所です。私は、目に見えないウイルスによって、目に見えないものの大切なことに気付かされたように思います。本学園は「人づくりの佐野日大」を掲げています。改めてその使命を肝に銘じているところです。

今、変化が激しく先行き不透明な時代にあります。私たちは、物事を広い視野で捉えながら、自分にできることから行動する「Think Globally, Act Locally（地球規模で考える 足元で行動する）」が求められています。本校は、どのような時代や社会にあっても、自分の思い描く夢の実現に向け、常にチャレンジする精神を持ちながら、「自ら考え、自ら行動する」ことを大切にする生徒を育てていく学校となるよう、教職員一同日々継続して教育実践に取り組んでまいります。

最後にあたり、皆さまの健康と今年一年の無事をお祈りしつつ、コロナ禍が早期に終息することを願って、新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。



教養ある人材育成が使命

日本大学学長 加藤 直人

年頭にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。昨年来の新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、健康上の被害だけでなく、国家間における人的交流の停止など、グローバル社会の根底に関わる大きな問題を引き起こしました。本学でも、学生、教職員の生命を守ることを最優先に、教育活動を継続・展開しています。学生、教職員の皆さまには、困難な状況の中でご協力いただいていることに心より感謝申し上げたいと存じます。

さて、世界は急速にAIやロボティクスの道を進み、学生たちは将来その社会の中で活躍が求められます。あらゆる情報が知識として容易に入手できる時代です。教員は、専門的な知識や技術を教授するだけでなく、それらを社会で生かしていく「術（すべ）」を学生に身に付けさせるよう導いていく必要があります。

また、AIやロボティクスの波は、既存のビジネススタイルを変え、人間は、人間でなければ答えの出せない事項にのみ対応していくかたちへと移っています。その中で求められるのが、人間が人間であるべき基本的な知識、いわば広くかつ深い「教養」です。本学は、幅広い学問分野を包括する総合大学であり、総合力を生かした教養を兼ね備えた人材を育成することが使命であります。

予測できない社会の中、また世界に広がるAIやロボティクスの波の中で学生が目標を達成する力を身に付けられるよう、それに向けた教育目標を示していきますので、教職員の皆さまには一丸となって教育活動を行うよう、ご支援をお願いしたいと存じます。

ブリティッシュヒルズ英語研修 ～英国文化を体験～

11月25日(水)～27日(金)、福島県岩瀬郡天栄村にあるブリティッシュヒルズにおいて、3年生の英語研修が行われた。英国の街並みが再現された環境で、滞在中、授業はもちろん、食事や買い物も英語で行い、英語力の向上のみならず異文化理解を深めた。さまざまな研修の最後には、生徒たちから先生たちへ感謝のメッセージを集めたサプライズカードを手渡した。

参加した大嶋一颯くん(小山・間々田小)は、「研

修前は楽しみな気持ちと不安な気持ちの両方でいっぱいだったが、実際に研修が始まると、どの先生も分かりやすく丁寧に教えてくれて、安心した。教室での学習はもちろん、食事やスポーツなどのプログラムも楽しく、あっという間であった。特に印象に残った研修プログラムはクリケットで、音楽が流れるなかで、初めてでも楽しく取り組むことができた。ブリティッシュヒルズでの研修を生かして、ますます英語の学習に取り組み、世界中の人と交流したい」と、意気込みを語ってくれた。



△ Opening Ceremony



△ 授業の様子



△ 先生たちへメッセージを送る

救急救命講習

11月18日(水)



△ 指導を受ける大島教諭

今年度も教員対象の救急救命講習が行われた。市消防署の協力を得て、心肺蘇生法と、AEDの使用法を確認した。合わせて養護教諭による、エピペン使用の講習が行われた。本校教職員一同が、「もしも」に備え、生徒の安全を守る意識を高めている。

新しい感染対策アイテム

乾燥するこれからの季節の必需品である加湿器と手指消毒のスプレーを、高性能なものに一新した。すでにすべてのクラスに設置され、生徒の健康を見守っている。



△ 加湿器

▽ 手指消毒のスプレー



シトラスリボンプロジェクト

「ただいま」「おかえり」を言い合える街へ

コロナ禍の不安のなかで生まれた差別や偏見が広がっている。しかし、だれもが、安心して検査が受けられ、たとえウイルスに感染しても、地域・家庭・学校(職場)のどこでも、心から安心して笑顔で生活したいと思っている。

愛媛県で始まったこのプロジェクトに、本校も賛同し、生徒会を中心とした活動が始まっている。私たちの生活を守り、支えているすべての人達への感謝と、日々を共に過ごす仲間を思いながら、リボンをつくってみてはどうだろうか。





… オンライン 国際交流 北京月壇中学 …

11月10日(火)、北京月壇中学とのオンライン交流会が高等学校と合同で実施された。田沼ロータリークラブのご支援を賜り、月壇中学と本学園との交流事業は多年に渡って続けられている。今年は、例年実施している現地への訪問は見送られたものの、オンラインを利用して互いの国や学校を紹介し合う機会が設けられた。

月壇中学側からは、生徒による「二胡」の生演奏が披露された。生徒たちは悠久の歴史を感じさせる音色に耳を傾け、中国へ思いを馳せた。本校からは、和太鼓の演奏披露や日本の伝統文化である茶道や和菓子の紹介が行われた。実物の和菓子を準備するなど工夫をこらして日本の文化を伝えることができた。昨年中国に訪問した生徒が、ホストとなった月壇中学の生徒と久々に顔を合わせる場面もあり、和やかな交流会となった。

現地への訪問が再開される日を心待ちにしながら、今後もこうした交流を通してさらに親睦を深めていきたい。



グローバル講演会

11月9日(月)、栃木県教育委員会主催のグローバル講演会に本校生徒が参加した。この講演会は、宇都宮大学准教授のモリソン・バーバラ氏と県内の高校生をオンライン会議システムのZoomでつなぎ、ライブ中継で行われた。

「ジェンダーと社会」と題し、社会的につくり出された性差に焦点を当て、日本が今後グローバル社会において改善すべき点などについてご講演いただいた。参加した35名の生徒たちは真摯に傾聴し、活発に質問していた。学びを深める良い機会となった。

ユネスコ 世界遺産移動写真展

佐野ユネスコ協会よりお借りした世界遺産の写真16点を校内展示し、世界遺産移動写真展が行われた。

コロナ禍で海外旅行に行くことが困難な今、写真を通して世界を感じてほしいという思いから実現したものである。

生徒たちは一枚一枚の写真を興味深く眺め、世界各地の文化への関心を高めていた。



輝く仲間たち

第46回「小さな親切」運動栃木県本部主催「作文コンクール」

優秀・県教育長賞

神山 美優 (1年・佐野・犬伏東小)

優良賞

林 咲結理 (2年・下野・祇園小)

加藤 未来 (1年・羽生・三田ヶ谷小)

松本 萌恵 (3年・幸手・上高野小)

伝えよう!本の魅力コンテスト

ツイッター部門 優秀賞

岩瀬 遥香 (6年・太田・駒形小)

中学生の税についての作文

佐野税務署長賞

藤田 未唯 (3年・佐野・城北小)

栃木県学校教育書写書道作品展*

条幅の部 特賞

會田 萌絵 (6年・幸手・幸手小)

半紙の部 金賞

神山 美優

奥澤穂乃香 (2年・羽生・羽生北小)

岡田 七海 (4年・佐野・天明小)

竹澤 花音 (6年・栃木・藤岡小)

栃木県書初中央展*

特賞

神山 美優

居上 真実 (3年・佐野・赤見小)

金賞

奥澤穂乃香

西田 心美 (2年・足利・南小)

鈴木 美咲 (4年・栃木・栃木第五小)

*新型コロナウイルス感染予防のため、審査のみ

第53回下野教育書道展

金賞

齊藤 綾香 (1年・栃木・栃木第四小)

神山 美優

阿部 光陽 (2年・佐野・天明小)

西田 心美

岩崎 日葵 (3年・栃木・岩舟小)

鈴木 美咲

銀賞

奥澤穂乃香

居上 真実

銅賞

石原 妃菜 (2年・太田・旭小)

丸山 心優 (3年・館林・第八小)

佐野市サッカー1年生大会

優勝 サッカー部 (合同チーム)

全国中学生人権作文コンテスト栃木県審査会最優秀賞



神山 美優

令和2年度全国中学生人権作文コンテスト栃木県審査会において、神山美優さん（1年・佐野・犬伏東小）の「感謝して生きる」が最優秀賞・栃木県知事賞を受賞した。

神山さんの作品は、コロナ禍の世情の中で人と人とのコミュニケーションの在り方が大きく変化したことを踏まえ、毎日の生活の中で当たり前とっていたことの中にたくさんの感謝の気持ちがあったことに気づいたというものである。

神山さんの作品は12月4日（金）に下野新聞に掲載され、6日（月）にはCRT 栃木放送で本人による朗読が放送された。人と人とのつながりが問われる状況だからこそ、それを大事にしていきたいという心情が伝わった。

第40回全国中学生人権作文コンテスト 足利協議会大会

- 金賞 神山 美優
- 銀賞 渡邊 陽子（3年・加須・樋遣川小）
三田 侑佳（3年・佐野・植野小）
横田璃々子（3年・足利・山辺小）
加藤 未来（1年・羽生・三田ヶ谷小）

第40回全国中学生人権作文コンテスト 栃木県審査会

最優秀賞（栃木県知事賞） 神山 美優

また、栃木県教育委員会主催の令和2年度人権に関する作文において、上野遥音さん（4年・小山・大谷東小）の「ありのままの自分」が優秀賞を受賞した。上野さんの作品は、授業を通して知った「LGBT」という語により、社会にはさまざまな性的マイノリティが存在することを知り、誰もがありのままの自分で生活できるような社会の在り方を訴えている。

第22回全国高校生・留学生作文コンクール

拓殖大学主催の第22回全国高校生・留学生作文コンクール2020において、上野遥音さんの作品が奨励賞に輝いた。

このコンクールは、国際的に活躍できる人材の育成を目的としており、多様な価値観を持つ人々が暮らしやすい社会にするために何が必要かを問いかけている。第22回は「ようこそ日本。こんにちは日本。」をテーマにSDGsの観点から作文が募集された。

英語検定 準1級合格！！

令和2年度第2回実用英語検定において、田畑諒さん（6年・足利・三重小）と渡邊日菜詩さん（5年・久喜・砂原小）が準1級に見事合格を果たした。

英語検定準1級の合格には、大学生や社会人として必要なレベルの語彙や知識が必要であり、その資格は、大学入試時の優遇措置や海外留学時の語学力証明にも役立つ。先輩方に続き、多くの生徒が自分の力に磨きをかけてを期待したい。

日本大学推薦
合格状況
(令和3年1月31日現在)

学	法	文	経	商	国	危	理	生	工	医	歯	松	生	薬	短	合
部	学	理	済	学	際	機	工	産	学	学	学	戸	物	学	期	計
人数	6	8	2	4	1	2	6	2	3	1	1	4	1	1	1	43

編集
後記

1月8日（金）、6年生の出陣式が行われた。黒板には力強い筆の文字で書かれた題字が貼られていた。文字の生命力に背中を押してもらった生徒もいただろう。6年生の勝負も大詰め、強い意志で乗り切っていこう。（長谷川記）

広報 わかざくら VOL.54
佐野日本大学中等教育学校 栃木県佐野市石塚町2555
☎0283-25-0111(代) http://ss.sanonihon-u-h.ed.jp